

第4回幼稚園再編に係る地域協議会(俵口幼稚園) 会議録

日 時:令和3年7月5日(月) 15時から

場 所:俵口幼稚園リズム室

参加者:森本座長、上田委員、吉村委員、村上委員、中尾委員、平田委員、奥村委員、九鬼委員、二宮委員、細口委員、河盛委員、城野委員、坂谷委員

事務局:原井教育長、奥田部長、松田課長、松本指導主事、福山課長補佐、生水(会議録作成者)

傍聴者:8名

<開会>

座長挨拶

次第1 こども園化のシミュレーション

委員説明(別紙資料1)

座長 0~2歳児を受け入れる必要もあり、こども園化するには時間がかかるというのが今のシミュレーションで理解できた。また、様々な課題についても説明していただいた。何か質問などはあるか。

委員 俵口幼稚園を存続させて、生駒台幼稚園だけをこども園化した場合のシミュレーションや、そういった案はないのか。

委員 今回検討するうえで、他自治体の調査も行った。例えば、奈良市では「翌年入園予定の園児が15人未満になったら園児募集の停止」といったようなルールを定めている。保護者の方からも、いよいよ少なくなったら統合も必要だと思ふとの意見もあると聞いた。何人になったら統合を検討するといった地域協議会としての意見も、書いていただけたらと思う。

委員 生駒市の3~5歳の合計が2953人で、そのうちの71人が俵口幼稚園在籍ということだが、俵口園区にはどれくらい子どもがいるのか。

事務局 令和元年度で、俵口園区は332人が3~5歳の合計。その当時の93人が俵口幼稚園の園児だった。

園長 今年度の地域内の子どもの就園率は30%くらい。年長で34%、年少で25%くらいだった。

委員 俵口園区の園児が、他の園区に行っているように感じる。生駒市内の他の地区の就園率はどのようになっているのか。

委員 令和元年度の数字だが、なばた幼稚園28.4%、生駒台幼稚園42.1%、俵口幼稚園28%、あすか野幼稚園19%、桜ヶ丘幼稚園39.8%、壱分幼稚園29.4%の就園率となっている。

委員 残りの約7割の方はどこに行っているのか。

事務局 はっきりとしたデータはないが、私立幼稚園や保育園ではないかと思う。

座長 他に意見や質問がなければ次第2に進める。

次第2 原案に対する追加意見の共有について

事務局 園長や保護者を集めての意見交換会が、6/18(金)9:30から俵口幼稚園のリズム室で行われた。かねてから再編については、時期等含め噂や不安が広まっていたこともあり、事務局でも回答できることがあるのではないかと考えて参加させていただいた。育友会の村上様から報告をお願いする。

委員 事務局の方にも参加いただいて、保護者が心配していることなどについて気軽に意見を出し合える場を設けた。当日はこれから入園を控えている保護者からも貴重な意見を聞くことができた。6月18日の保護者意見交換会で出た意見だが、統廃合には反対だが、仮に統廃合されるとしたら時期はいつ頃になるのかという質問に対して、早くとも令和8年からという回答をこども課からいただいた。俵口幼稚園廃園の噂だけが広まってしまっているので、統廃合の時期について正しい情報を市からも周知するという回答もいただいた。育友会としての意見は、俵口幼稚園をこのまま存続してほしい。理由として、公立幼稚園は原則徒歩通園なので、歩いて行ける生活圏の中に公立の幼稚園があるべきと考える。また、徒歩通園は小学校通学に向けて交通ルールを学び、自信をつけることにも繋がる。次に、小学校と隣接しているからこそできる交流や連携がある。市からは隣接していない私立や保育園でも問題なく連携できているとの回答だが、これはあくまで事務処理上の連携であり、私たちは距離が近いことに意味があると考え。生活圏にあることで、親しみを持つことができると考える。

災害時の引き取りについても、園が遠いと二次災害に巻き込まれる可能性がある。俵口幼稚園は坂の上という少し不便な環境ではあるが、町の喧騒から離れて園庭も広く、自然豊かな場所で、教育に適した環境であると考えます。また、初めてとなる親から離れて社会生活を送る場所が、自分の住んでいる身近な場所であることで、もっと地域とのつながりを持つことができると思う。

預かり保育料が改定されて、今年度からは夏季休暇中の預かり保育が始まり、公立の幼稚園も以前より利用しやすい環境になった。俵口幼稚園は市内でも預かり保育の利用が非常に多い園。俵口幼稚園をこども園化してほしいという保護者の声もあった。例えば幼稚園型の認定こども園であれば建物の改修が必要ではあるが、0～5歳の受け入れに比べると改修は少なく済むと聞いている。他にも0～2歳までの保育施設を利用している家庭も、3歳からのこども園にすれば、利用されるかもしれない。生駒台幼稚園との統合に関する課題として、最も大きいのはやはり距離があるということ。バス通園となれば今まで不要だった負担が生じ、きょうだいがいればその負担は数倍になる。これに対して市は統合された地域のバス利用料は無料にするなど検討しているが、俵口幼稚園が存続すれば不要な議論である。徒歩通園できる距離でなくなれば、妊婦や未就園児をつれての登園は困難だと考える。人数の問題もある。今のまま統合すると生駒台幼稚園では人数が多すぎて収容できないといわれている。待機児童解消を目指すのであれば、生駒台幼稚園を単独で幼保連携型のこども園にして、俵口を幼稚園のまま残し、将来的に人数が減ってから再編すればいいのではないかと。廃園の噂のせいで入園を見送る家庭も見受けられる。在園児の保護者でもはっきりとした情報がないために、否定することもできず、これが俵口幼稚園に保育ニーズが無いと勘違いされている原因になっているのではないかと非常に憤りを感じている。すでに統廃合は決まっていて、今更意見を言っても仕方ないと思っている保護者もいる。事務局も統合は決定事項ではないと言いつつも、再編が前提の話し合いと感じる。公立幼稚園は子ども達が等しく健やかに幼児期の貴重な3年間を過ごす場所。地区の保護者である私たちは俵口幼稚園を存続させたいと考えている。是非検討をお願いしたい。

座長 今回の意見も意見書に入れていくことになるかと思う。今後保護者の方が不安に思われないように市は適切な情報発信をしていただけたらと思う。

次第3 俵口幼稚園の存続について

座長 前回の会議で俵口幼稚園の存続という意見があった。それをどう意見書に盛り込んでいくかについてははっきりしていなかったので、ここで協議をしていただきたい。このままで幼稚園の存続となると、園児数が年々減少してしまう。俵口幼稚園存続に向けて園児数を増やすためにも、行政だけではなく地域としてもどのようなこ

とができるのかを併せて議論いただけたらと思う。

委員 俵口幼稚園存続というテーマになっているが、これは意見書に入れるべきだと思う。提示された意見書の「2、協議会としての意見」の中で、集めた意見を検討して反映し、取りまとめるという形になっているが、この案は原案6ページの「3、具体的な方策を実施する際に留意すべきこと」について書かれているだけである。協議会の内容や趣旨、今まで議論したことが反映されていない。この内容では原案をそのまま受け入れよというように感じる。よって、この意見書については私個人としては賛同できない。少子化に伴う数字や前提条件などを説明していただいたが、私は少人数がいいのではないかと考えている。また、先ほど育友会からもあったが、通園の2キロという数字についても現実的かどうか疑わしい。それから、生駒台幼稚園周辺の駐車場や交通の安全性についても確保されないと思う。むしろ、俵口幼稚園周辺のほうが空きスペースはあるように感じる。となると、このこども園化の評価自体が変わってくるのではないかと考える。よって、この前提に沿って会議を行うこと自体が疑問。私は元々幼稚園だけでなく地域の問題だと考えている。教育委員会が出した基本的な考えに沿って課題を解決できるよう考えてきたが、まだその課題や解決策も整理されておらず、このような意見書案が出されることは、やはり納得ができない。地域社会というのは、幼稚園、小学校、警察、スーパー、病院といった地域の建物に様々な機能があるが、固まってひとつの機能を果たしている。よって、幼稚園がなくなると子育て世代が来なくなり、地域社会が廃れるというリスクがあるのではないかと思う。なんとか協議会として幼稚園を残す、こども園化するという方向で意見をまとめていただきたいと思う。

座長 この協議会の前提が原案についての課題を検討ということだったのでこのような意見書の形になったのかなと思う。原案への反対や、俵口幼稚園の存続といった意見をどう意見書にとりいれていくべきか。

委員 実態についていろいろ検討していただいているNPO団体や育友会、地域からは強く反対という意見が出ている。統合を前提とした会議だが、個人としては「そうではない」と思いながら会議に出ている。そこが払拭できないと私の名前を入れて意見書とするというのには賛同できない。

座長 次第4の内容をいただいたので、次第3とあわせて協議したい。十分に意見や協議内容が意見書に反映されていないという意見があるので、事務局より意見書作成の経緯など含めて説明していただけるか。

事務局 原案の懸念事項について、皆さんに意見聴取票という形で意見を聞いていただいた。前回の会議で事務局がたたき台を作成してということになったので、意見聴取票を基に意見書案を作成した。事前に送付したたたき台について、修正案を委員からいただいている。本日の資料で朱書きで訂正している部分となるが、5ページ(1)意見聴取団体に光陽台自治会を追加した。6ページ(3)協議事項の中にNPO法人市民の輪いこまを記載した。元西松ヶ丘自治会長様の署名についても5ページに記載した。また、本日新たに元西松ヶ丘自治会長様より意見書をいただいているので、会議の終わりに配布する。署名も追加で提出され、合計358筆になっている。いただいた意見書の内容は、幼稚園の存続についての議論の要望と、存続の希望というもの。次第3だが、この後議論いただきたいと考えている。あと、意見書案の3ページ(6)について、俵口幼稚園のこども園化についてもっと議論があったのではないかという指摘。前回会議では、民間委託や民間との統合、公私連携の話も出ていた。これらについては第4回の協議会で議論いただけたらと考えていたので、簡単な記載となっている。最後に、大見出しとして「3、俵口幼稚園の存続について」としているの、協議していただけたらと思う。

座長 事務局で基本方針に沿ってまとめたのが意見書案となっている。これでは納得できないという意見がでている。存続についてという部分について意見を出していただければと思う。

委員 反映されていない意見があり、納得いかないと思っていたが、幼稚園型のこども園はハードルが高いのか。自分なりに調べたところ、こども園には種類があるようだが、管轄も厚労省や内閣府など異なっているようである。学校法人でなくても保育所からのこども園化は簡単なのだろうか。こども園の種類も含めてその辺を説明していただけたらと思う。

事務局 認定こども園は平成27年子ども・子育て支援新制度の中で位置づけられており、内閣府の管轄になっている。幼稚園は学校法人が運営するもの。こども園については、幼稚園と保育園が合わさったもの、それが幼保連携型のこども園となる。市内にある幼稚園型のこども園は認定こども園生駒幼稚園で、3～5歳児の1号・2号認定児を受け入れている。あと公私連携型認定こども園について、運営は民間だが、市と協定を結んで公の考えも運営に反映できるというもの。今、市が考えているのは幼保連携型認定こども園の開設である。

委員 補足するが、内閣府がやっているのは幼保連携型認定こども園。これは幼稚園機能と保育園機能を半々有するもの。国はこれを進めようとしている。すでにあ

る幼稚園に保育所機能を少し追加したものが幼稚園型こども園。違いは、基本は幼稚園なので土曜は開園していない。開いている時間も基本的には短い。基本は幼稚園だが、働いている家庭の子どもを受け入れて待機児童を減らすというもの。幼稚園が基本になっているので学校法人や地方自治体が運営をしている。もうひとつは保育園型認定こども園。基本は保育所だが、1号認定児も少し受け入れるというもの。保護者の退職など家庭の事情が変わっても転園しなくても良い。国が目指しているのは幼保連携型だが、それに行くまでに既存の幼稚園や保育園をこども園にしている。それが幼稚園型、保育園型であり過渡期のこども園と言える。

委員 意見書はたたき台ということだが、存続について十分に議論すべきだと思う。特に地域住民からは俵口幼稚園のこども園化について多数意見が寄せられていたので、もっと協議が必要だと思う。以前の俵口幼稚園保護者の意見でも約70%は反対されているという記載があった。自分が近隣でも意見を集めたところ、全員が反対だった。なので、俵口幼稚園の存続やこども園化についてはもっと検討していただきたい。それから、これからの俵口幼稚園を魅力ある園にするにはどうしたらいいかということが大事だと考える。たくさん子ども達に来てもらう為にはどうすればいいかということに焦点をあてていくべきだと思う。協議会として存続の意見をあげるべきだと考える。

委員 10年以上ボランティアをしているが、子どもの声が聞こえるのは良いといつも思っている。「1、協議事項」の中で少人数のデメリットについて書かれているが、何も根拠が無いと思う。ハッキリ言うと、この会合は統合ありきでずっとやっていると思っていた。ほんとに統廃合が決まっているならばこのような会合は必要ないと思う。この協議会の意見書の書き方にしても、全部再編ありきの文章になっている。これはおかしいと思う。市として意見をまとめて聞くだけで、結論は決まっているのではないのか。先ほど育友会の方も言っていたが、統廃合ありきになっているのではないか、そこをハッキリしていただきたいと思う。

委員 今回の統廃合は、俵口幼稚園区の我々住民にどのようなメリットがあるのだろうか。負担はたくさんあるが、住民にどのようなメリットがあるのかわからない。生駒台幼稚園周辺の保護者にとってはメリットがあると思うが、それは限定的だと思う。一方、俵口地域は生駒駅に通勤する方が多いと思うが、一度逆方向の生駒台幼稚園に行ってからという負担が生じるのではないか。住民にとって幸せなことが何かあるのか。

委員 この中で実際に光陽台から生駒台まで歩かれた方はいるのか。子どもの足で

坂を登ったり降りたりするということを考えてほしい。これを考慮したのかということを知りたい。

委員 先ほどの意見にもあったが、この会合は俵口幼稚園を廃園にする前提でやっているように感じる。先に俵口の存続を考えてからというのが正しい順番だと思う。それが難しいのであればこども園を検討し、それでも維持が困難であれば統合という流れが正しいのではないか。自分もこの会議の進めかたには反対である。

委員 たたき台を作成していただいております。ただ、我々地域が望んでいたことが入っていないのが非常に残念である。意見聴取をした結果、一番多かった意見は俵口幼稚園の存続やこども園化であったはず。その他の部分に記載されてはいるが、それが意見として優先順位の高いものではないかと思う。こども園化についても、できるような方向の意見書をお願いしたい。ずっと(1)から意見書案を見ていくと再編ありきの意見書になっている。ぜひ、存続やこども園化ということについて、意見書として優先順位をあげてもらいたいというのが自分の意見である。

委員 自分も協議会委員として俵口幼稚園の存続を希望する。俵口幼稚園存続についての保護者のたくさんの意見や言葉が胸に響いた。幼児・保護者・地域のために幼稚園は必要だと思う。協議会委員の皆様が俵口幼稚園の存続を希望されているか教えていただきたい。

委員 私自身も他の委員さんと同意見。私が疑問に思ったのは、(4)跡地の利活用についてとあり、(6)その他で俵口の存続について不可能か総合的に検討するとあるが、これは逆ではないか。可能かについての検討ではないかと思う。資料の意見書案で、存続について大項目として設けられていた点は少し安心した。

委員 市の方針は変わっていないと思うが、子どもが減っているという現実において、今後どのような方向に向いていくのか、俵口地域についてどのように考えていて、どのような街づくりを進めていきたいのか知りたい。先ほどのパワーポイントでは人数など分かりやすかったが、お金や人数というのは運営する側の評価である。実際の住民や家庭の立場を考えているのか、そういう部分からもう少し評価していただけたらと思う。光陽台においても、資産価値が下がる、教育設備が少なくなることで地域に住みづらくなると言われている。若い人の流入についてどこまで考えての政策なのか、その部分の説明を具体的にいただきたいところである。

委員 「少人数の園では人間関係が、…」という文言があるが、大人数のデメリットが載っていないので、これは消してほしい。大人数のデメリットも必ずあるはずである。

座長 意見書として、メインの意見を俵口幼稚園の存続にして、原案への意見はその次に。事務局でそのように意見書を修正してもらえるか。

事務局 協議会が意見聴取票で集めた課題に対して出てきた意見を書き込んだ形の意見書にしていた。協議会の皆様の存続という意見は把握した。ただ、意見書として書くときに、具体的に何の為に、どのような観点から存続・こども園化をするのかというのがあれば非常に書きやすいかなと思う。まずメインに存続やこども園化を書くのは可能だが、どのように裏づけや理由付けをしたらいいだろうか。根拠付けのようなものを何かいただきたい。通園のことや地域とのつながりを理由に持っていくのも可能だが、それでいいのか。条件付けをたたき台で記載させてもらったが、これらを活用して反対意見を記載すればいいのだろうか。

委員 意見書には基本的な考え方が反映されているが、今まで協議会で出た意見や地域で出た意見が反映されていない。マイナスの話ではなくて、俵口幼稚園が存続していくことや、こども園化することによるメリットを記載したほうが訴える力は強いのではないだろうか。この協議会の考え方は、少子化が進み、コスト的にも人を集めるのも大変だから統合というものであり、園の存続ということになればその問題をクリアしなくてはならない。その為にはどうやって人を呼びこむのかだが、魅力のある地域・幼稚園にすれば人は集まると思う。若い子育て世代が来ると税金も入る。地域に空き家がでてきており、幼稚園に預けようという人が入居してくるが、幼稚園がなくなるとそれがなくなってしまう。そして少子化がさらに加速してしまう。幼稚園があることによるプラスで思考した表現をするべきではないだろうか。予算についても教育にもっと配分するべきではないかと思う。若者に魅力ある町にするという観点から幼稚園をどうしていくか考えるべきでないか。俵口幼稚園の魅力も意見書に盛り込んではどうか。

座長 マイナス面ばかりでなくメリットを記載し、俵口幼稚園を存続させていくということを中心に書いていってはどうかということ。その他の意見にもあったプラス面を取り上げて、それらを理由に存続させてほしいというのが地域協議会の最も強い意見である。再編案については、このような意見が出ているという形の意見書にまとめるといふことでよろしいか。

委員 俵口幼稚園の評議員をさせていただいているが、非常に魅力ある幼稚園だ

と思う。今まで出た反対意見の根拠は弱いと思われているのか。通園の問題、災害の問題、保護者の問題などあるが、基本的な考え方に対する意見としては弱いと思われているのか。

事務局 意見の強い弱いについては皆さんの考えなので事務局としての判断は難しい。懸念される事項について皆さんに聞き取っていただき、課題に対していろんな意見をいただいたが、それはひとつひとつ検討すべきだと考える。結論ありきと感ぜられるのは、ゼロベースだと何を話していいか難しいと思ったので、再編案の懸念される事項について皆さんから意見を聞き取っていただいて、そこに問題があれば、そこから反対に繋がる課題が具体的に見えてくるのではないかと思い、皆さんに意見聴取票で意見を集めていただいた。事務局案ではこのようなまとめ方をしているが、集まった具体的な意見を教育委員会で検討した結果、解決できないということであれば、中止や延期もありえるのではないかと思う。地域協議会として存続の検討から意見を出していくのであれば、その理由も明確に示したほうが良いのかなと考える。

委員 お金の話がでるとどうしても統合しなくなってしまう。議員さんも含めてその部分を考えてほしい。予算のことを言われたら我々はどうしようもない。予算抜きにして、俵口の存続について地域の活性化なども考慮して検討していただけたらと思う。

座長 意見書は俵口幼稚園存続について中心にまとめていただいて、懸念事項や課題についても記載していただく。そして「3、俵口幼稚園の存続について」のボリュームを大きくする形で修正していただいて、皆さんに見ていただく。そしてそれについて、次回の協議会で再び意見を頂戴するということによろしいか。

委員 少人数の園のデメリットしか書いていないという意見があったので、あり方検討委員会での協議内容について皆様に紹介したいと思う。検討委員会でも少人数だから先生が目が行き届き、それぞれの個性が活かされるといった意見が挙げられており、それについては時間を費やして議論した。その時の座長の先生が「私たちは幼児教育のプロなので大きい集団でも子ども達ひとりひとりを見る目を持っている。」とおっしゃっていた。今年、私は全ての園を訪問したが、複数のクラスのある園は活気があると思った。生駒の公立幼稚園は先駆的な教育ができており、それをそのままの施設で行うのであって、大規模の園を新たに作るということでもないので、その点は安心していただきたいと思う。

座長 スケジュールとしては次回が最後ということになっている。事務局で出された意見を踏まえた意見書を作成していただき、委員の皆様を送付していただきたい。それでよろしいか。

事務局 修正案を送付するので、意見をいただけたらと思う。それらも踏まえて意見書を修正し、最終第5回の協議会で確認していただくという形でよろしいか。

事務局 次回は8月4日(水) 15時から、俵口幼稚園リズム室にて開催とする。

<閉会>